

ふるさとわがまちづくり

亀首町自治区

「亀首町」の由来

亀首町は、北にそびえる猿投山(629m)の麓から流れる籠川沿いの東西に位置し、猿投町と四郷町の間地にある、270世帯の自治区であります。

籠川沿いに平地(主に稲を生産)と丘陵地(主に野菜・果樹生産)が、調和の取れた地形で、自然環境に恵まれた土地であり、現在の私共が住み良いことは、昔の人達にも住み良くて生活に適していたと思われ

ます。籠川は猿投山の南斜面に源を発して、南に向かって亀首町を流れ、四郷町で伊保川と合流し矢作川に流れ込んでいます。

現在、川の水がきれい、魚も多く生息している河川では、豊田市の中で1番にランク付けされています。この川の水と緑豊かな調和の取れた自然を、これからも大切にして、後世に残したいものであります。

亀首町の歴史は、猿投山麓から流れる籠川流域の加納・舞木町などから採取されている土器などから考察すると縄文時代から先縄文時代から先人達が住んでいたと思われ、また、籠川流域古窯址は、森腰地区にある熊野神社の北北西の地点には、旧猿投町の最古の上向イ田窯址があったとされています。

亀首町への企業浸出

拳母町(現豊田市・旧猿投町は昭和42年に豊田市と合併)に、トヨタ自動車工業(株)が工場操業を開始し、特に戦後から飛躍的な発展をし続けてきました。



そんな中で、当町にトヨタ紡織(株)(荒川車体 アラコ トヨタ紡織)、林テンプ(株)、トヨタT&S建設(株)(豊田総建(株))などの企業が誘致され、それに伴い多くの関連企業が工場を建設し、操業を開始しました。

しかし、旧藤岡町(現豊田市)にもトヨタ関連の中央発條(株)、アイシン化工(株)などの大企業の工場があり、従業員の車が朝夕、国道419号線でラッシュになり、道路事情の悪さが課題となっています。

自治区の行事としては、歴代区長・役員の尽力により、長年守り継がれてきている、春の区民大運動会、夏の盆踊り大会、秋の熊野神社の大祭などがあります。また町内ではお天神祭、秋葉祭、山の講などのお祭りがあり、大人から子供までが楽しめます。

水辺ふれあいプラザの建設

平成19年の市議会で「水辺ふれあいプラザ」を亀首町本郷地区内に建設する事が決定されました。自然との共生を実感する河川の自然体験・学習プラザが平成23年に完成する予定です。

この施設は籠川の水を直接取り入れ、矢作川から消えつつある魚(メダカ、ウシモツゴ、カワバタモロコなど)を放流し、子供



から大人まで、水に関するふれあいの場として、水の中で生きる魚の生態を見て、楽しく学べるよう計画されております。

また、安倍前総理の発案で、平成19年度から始まった農地・水・環境保全の会では、農地を中心として自然環境をもっと良くしようと、農業用水路、土手、農道の整備に、年4回ほど、農業関係者の方々が汗を流して整備に当たっています。

籠川を生かしたまちづくり

籠川を生かしたまちづくりとして、青木橋を中心とし、水遊びや魚釣りのできる親水性公園を目指し、河川敷の環境整備活動や、たけのこ狩りのできる竹林の整備を、亀首町まちづくりの会が行なっています。

自治区の課題「安全・安心の確保」

将来を担う子供達の育つ環境が整備されているとはいいがたく、「通学路でいつか車と接触しないか」、「車が集団登校の中に突っ込みはしないか」と心配であります。

全ての諸問題がすぐに改善はできないが、優先順位を決め、1日でも早く良くしていかなければなりません。

また、不審者出没が猿投地域でも頻繁に発生しております。犯罪弱者を守る活動を区民の皆さんのご理解とご協力を頂き、安全・安心して子供達、お年寄りの皆さんが明るい暮らしのできるまちづくりを目指していきたいと思っております。

亀首町自治区データ

(H19.4 現在)

設立：昭和42年
世帯数：270世帯
：163世帯(昭和51年)
組数：18組
面積：2.85 Km²
自治区たより：「かめくびだより」年5回
回覧：月2回
ちびっ子広場：2箇所
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：64箇所
小学校：加納小学校区、四郷小学校区
自治区会館：亀首町児童館